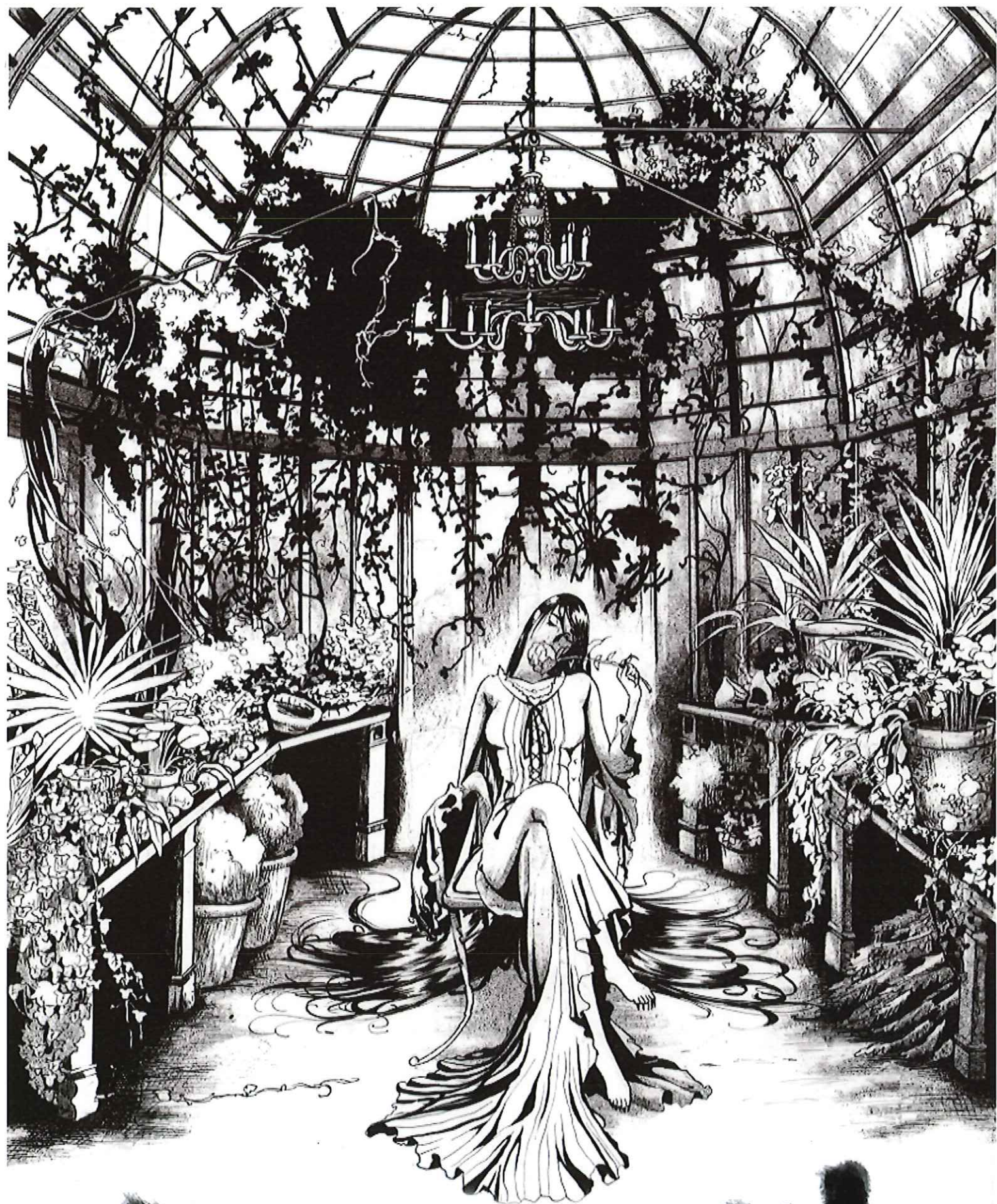


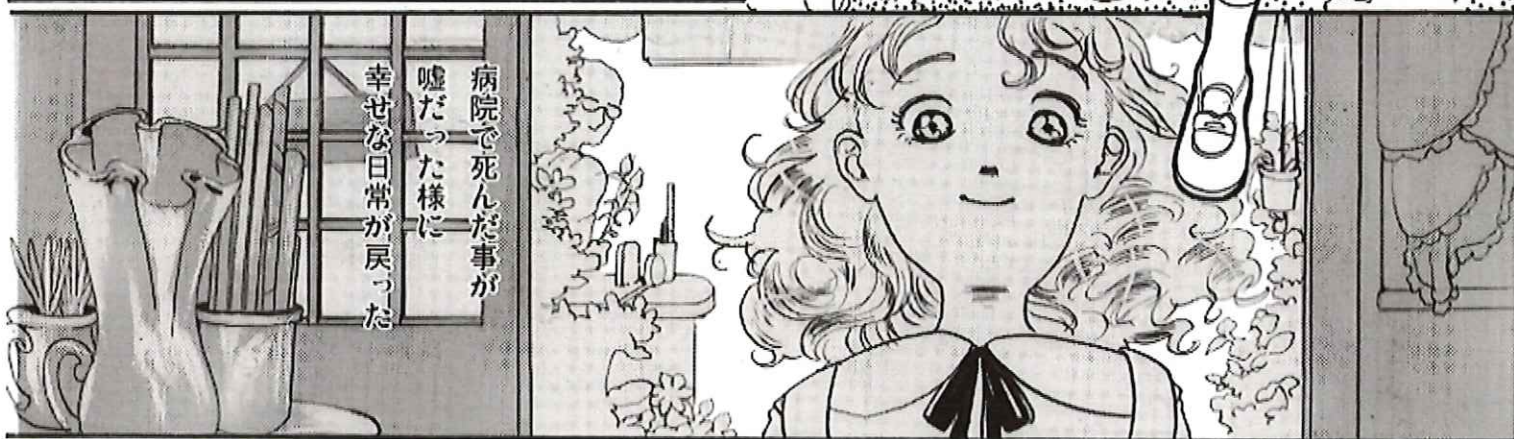
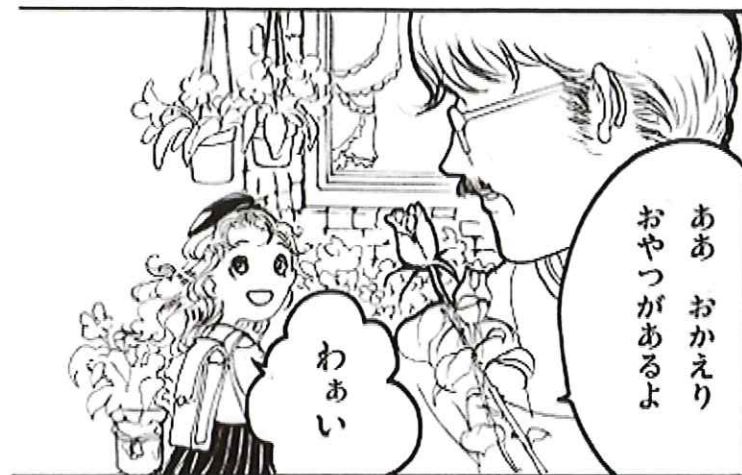


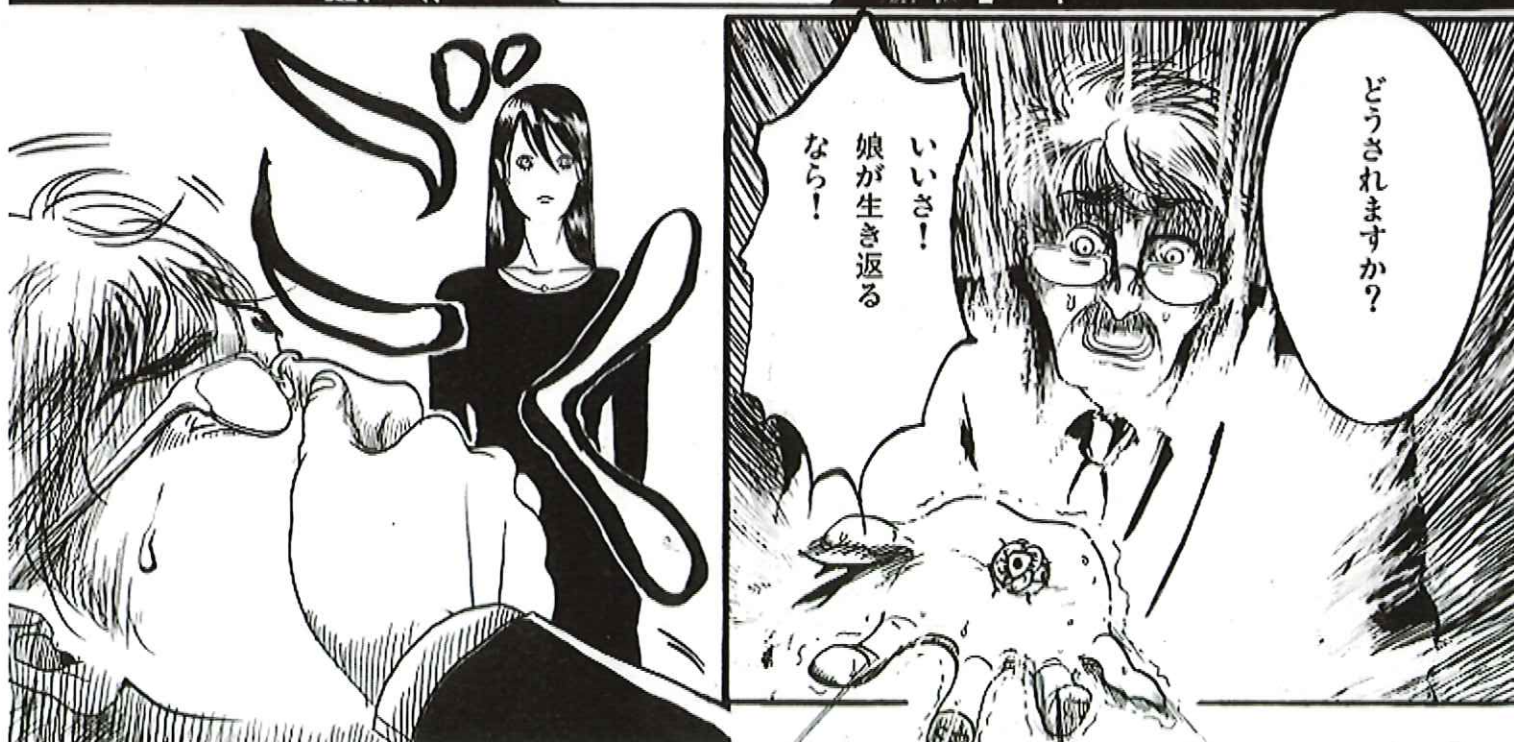
ZOUENSHI

造園師

Daimin











ただ困ったのは
この事をどう
言い逃れるかだった

あたしも
やるー!

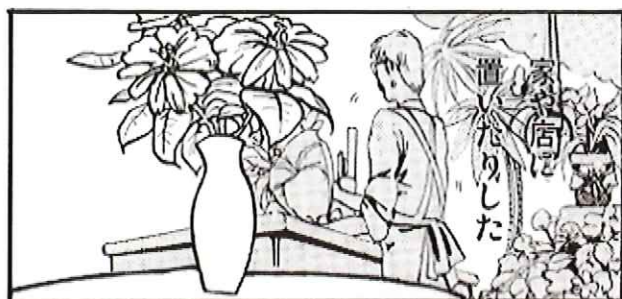
え……っ
お花の冠を
作って
あげるよ!
お前はやらなくて
いいの!

やったい
ー!

お花が大好き
だから いつも
側に置いて
おきたいんだ……

ふーん
そっかあ……

パ……
パパはね……



切っても痛みは
ないので
生えてくる度
切っていた



なんせこの花は
成長が早い。

ポコ



ポコ
ポコ

お花大好き
おじさん

で通っていた。

丁度花屋
だったの
で



お客さんに
見つけた時は
変な目で
見られた



こんにちはー！

やあ。
よく
来たね。

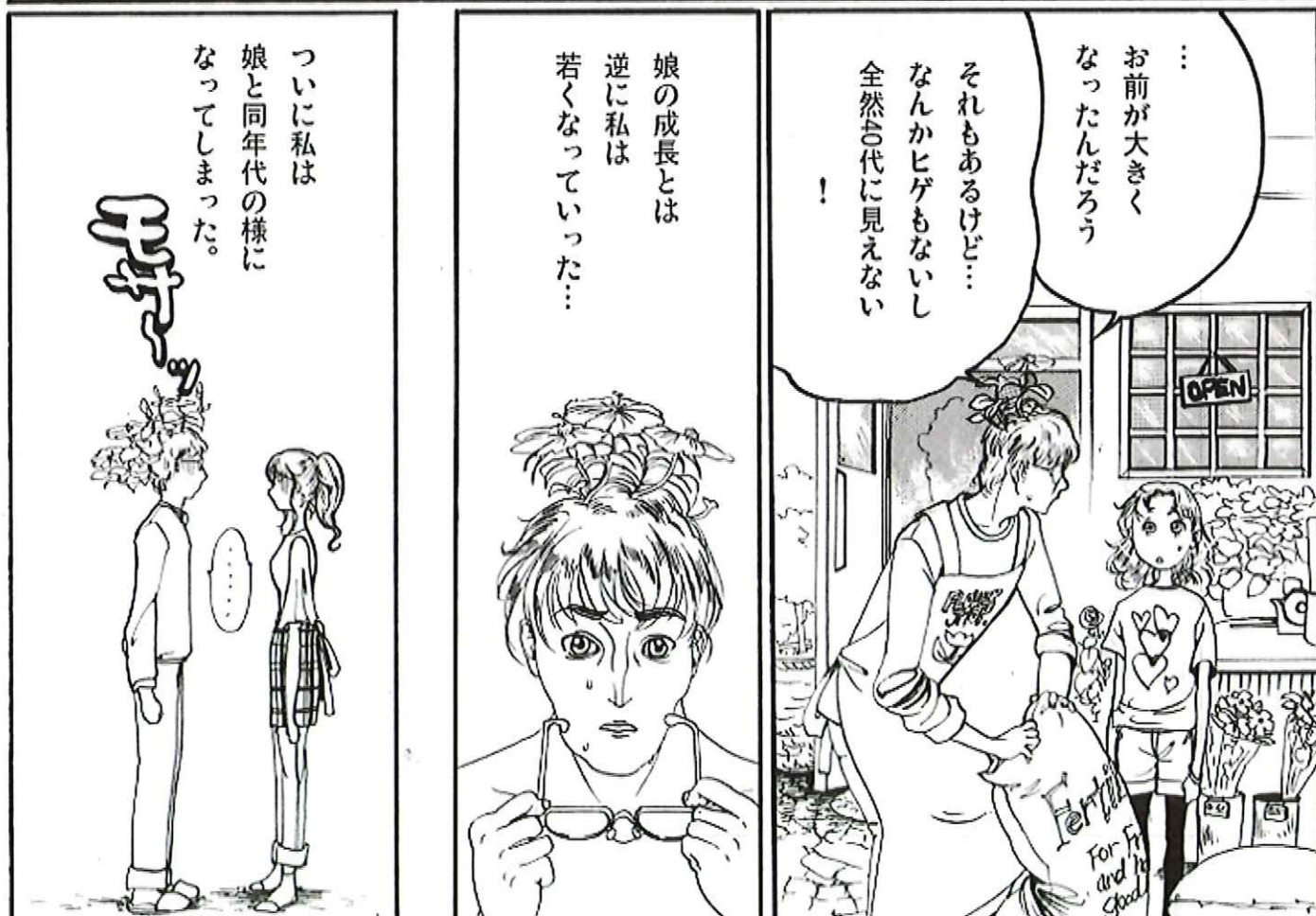
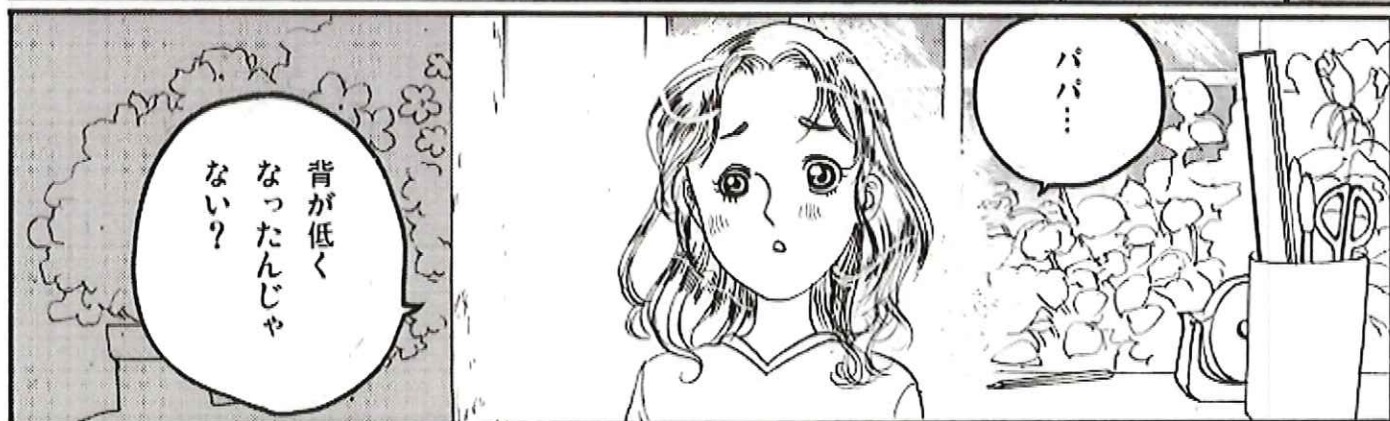
娘が友達を連れて
来た時は非常に
焦った。

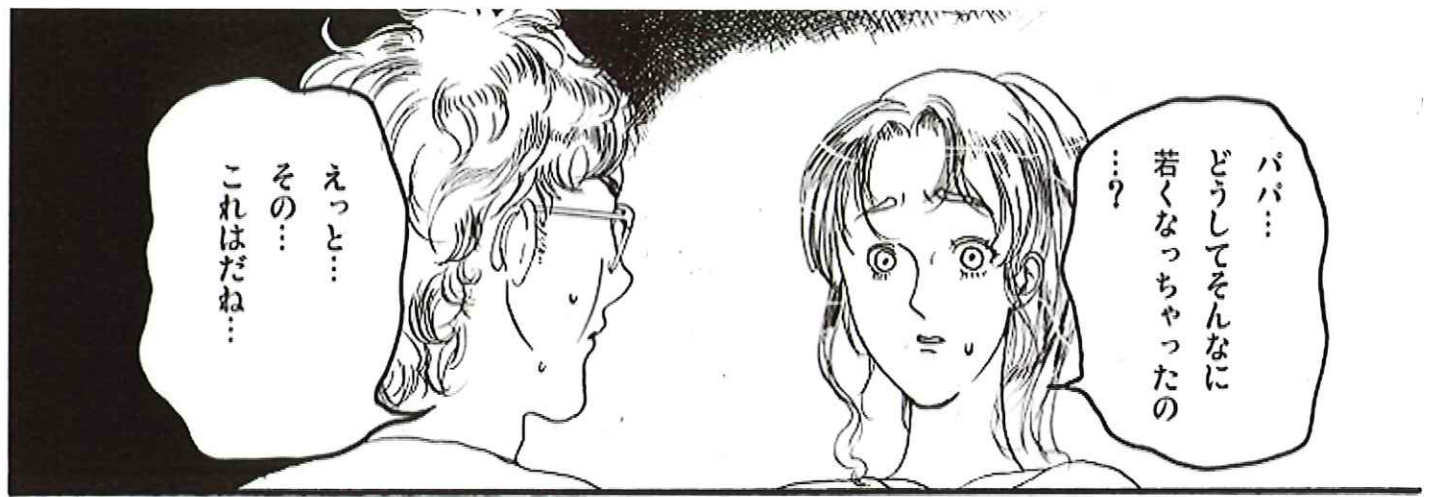
おじちゃん
頭にお花を
乗っけてるの
ホントなの

帽子をとってよ
おじちゃん！





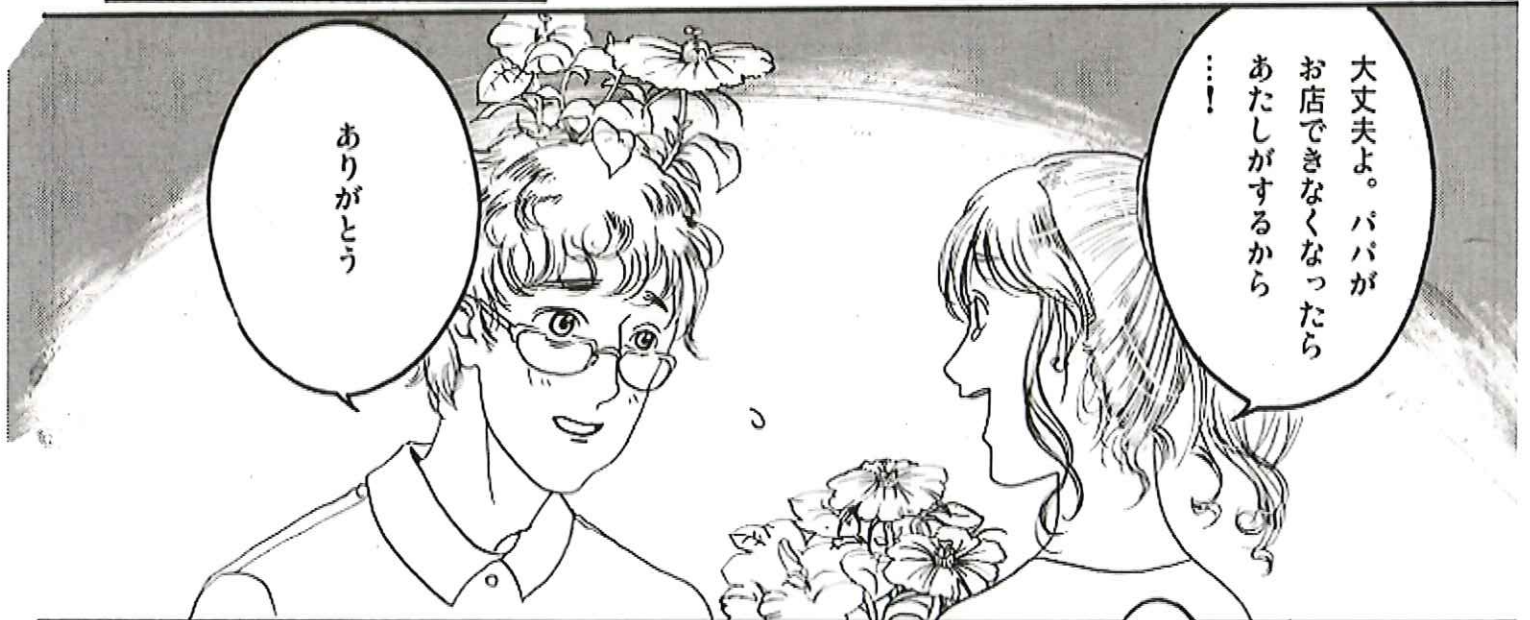


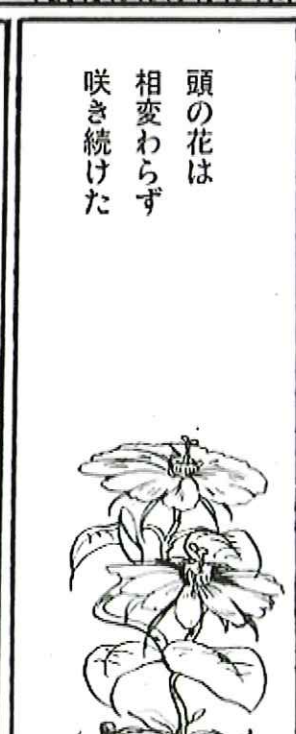
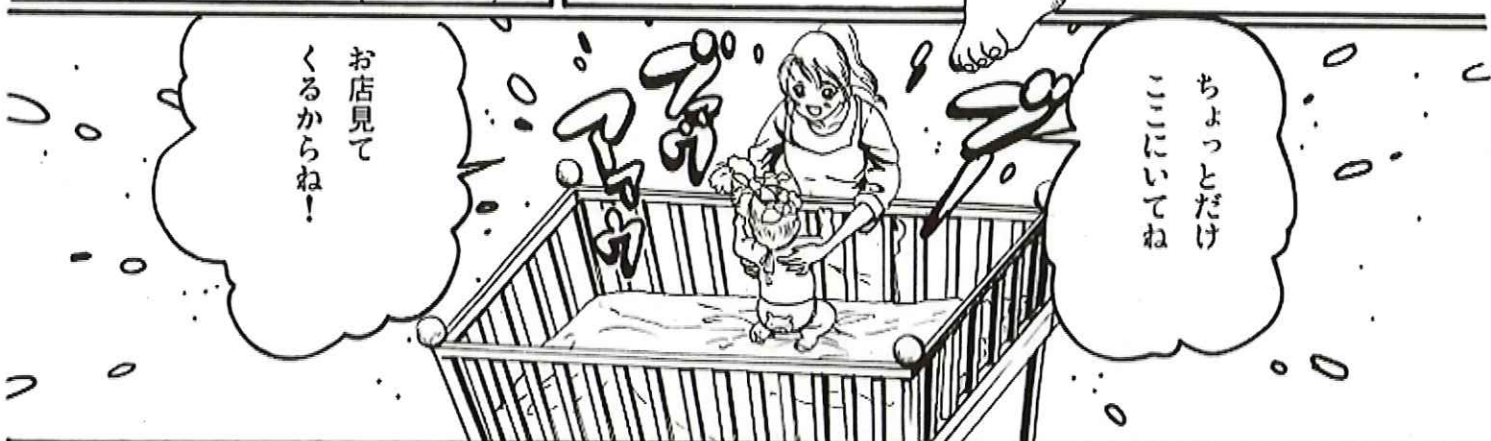


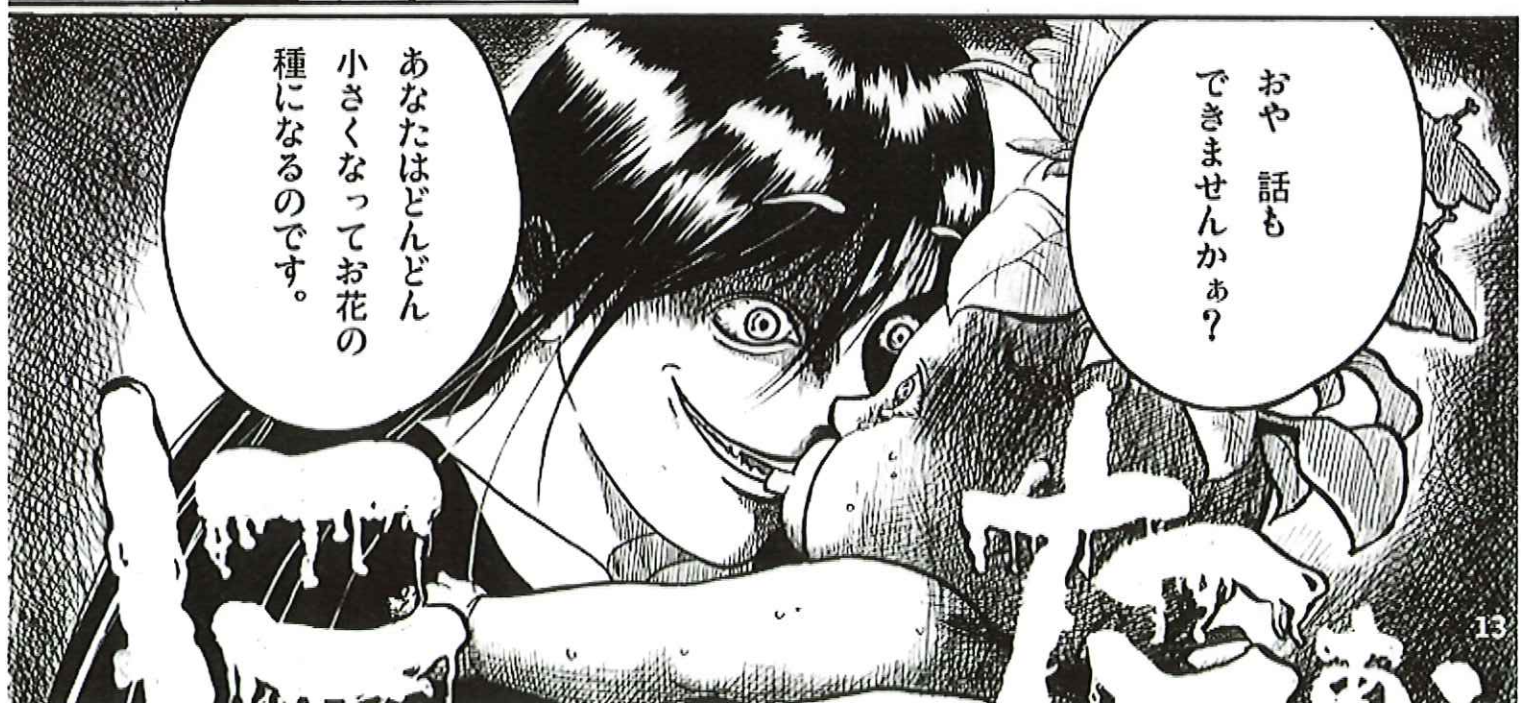
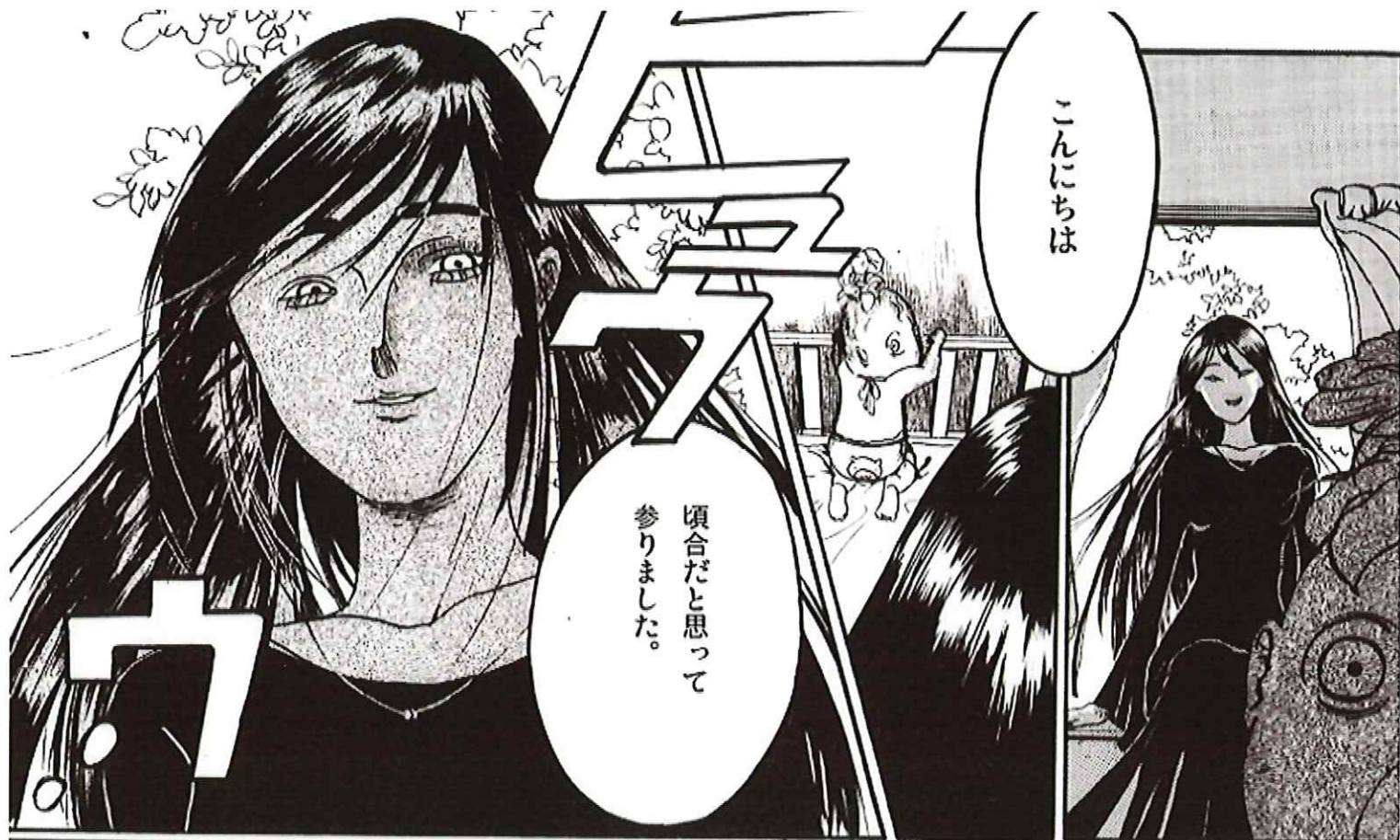
一度娘は死んだ事。
種をくれた女の事。
本当は好きで頭に
花を置いている訳
ではない事。

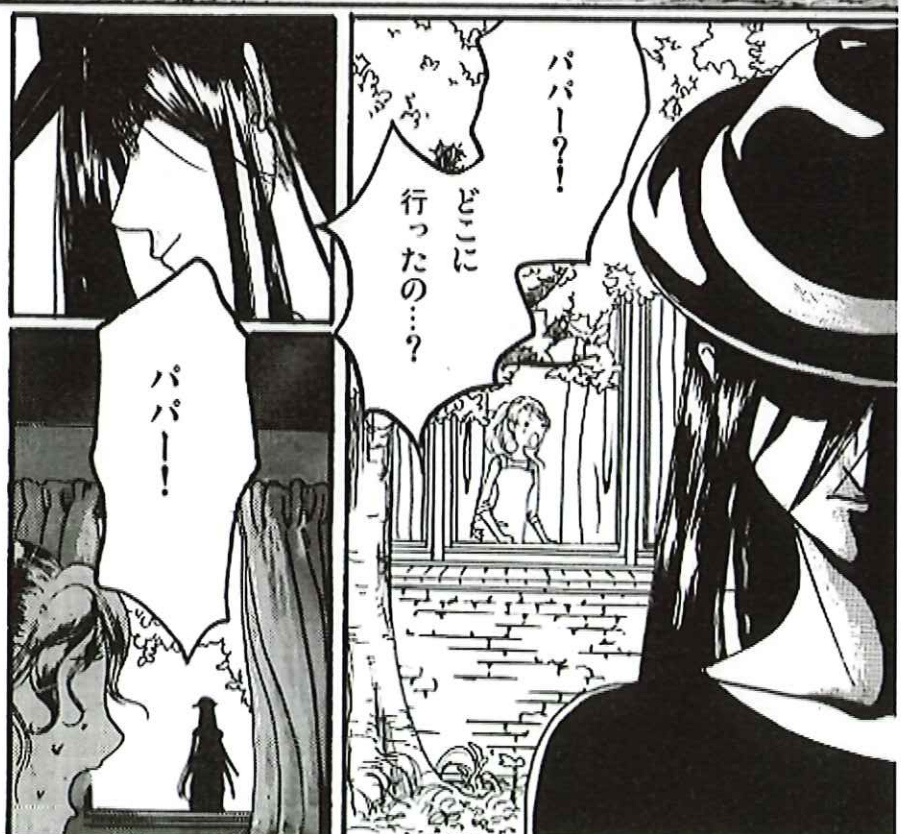
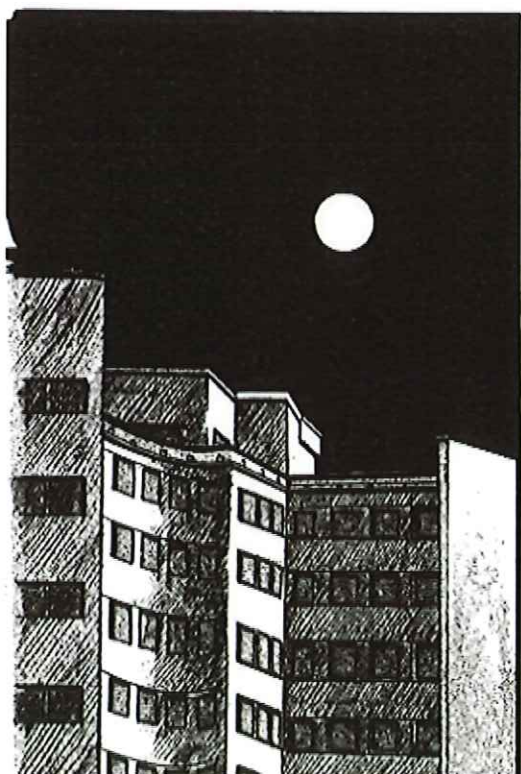
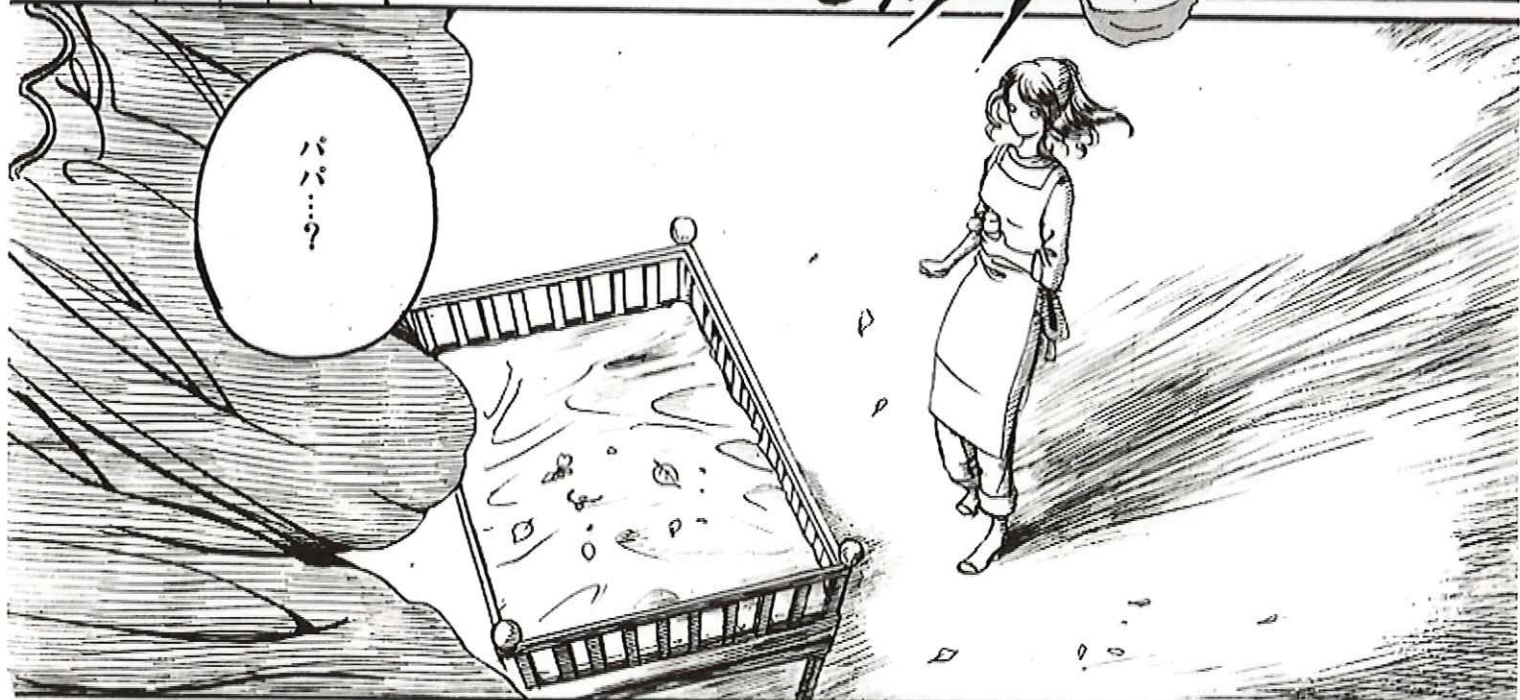


私は事実を
伝えた。











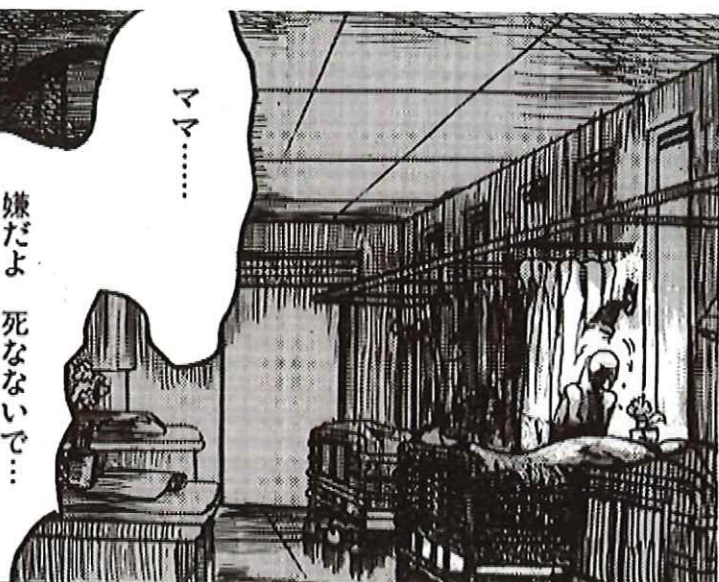
すみません…



ママ…!

嫌だよ 死なないで…
目を開けてよ…

ママ……



とても気の毒で
突然声を掛けて
しまいました。

もし宜しければこれを
使いませんか?

…それは?

失礼…



愛しい人とまた
過ごせますよ…

